

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 Aユニット)

事業所番号	0673200416		
法人名	社会福祉法人さくら福祉会		
事業所名	グループホームまつやま		
所在地	山形県酒田市西田12-5		
自己評価作成日	平成22年 8月 23日	開設年月日	平成17年 9月 2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の中で、利用者と職員がのびのびと生活をしています。近くにスーパー、警察署、消防署、学校、総合支所などがあり、法人の他事業所も含め積極的に交流が行われています。地域の中で四季を感じながらいきいきとその人らしく過ごせるように支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3-31		
訪問調査日	平成22年 9月 16日	評価結果決定日	平成 22年 10月 4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所独自の理念「地域の中で・その人らしく・いきいきと」や「明るい笑顔・心のゆとり・個々の思いを尊重、楽しい職場」等の行動指針を掲げ日々のサービスに取り組んでいます。利用者をおもてなしに受け入れ、日頃より過剰サービスにならないよう自立支援を心がけ、地域密着型サービスとしての役割を共有し、信頼関係を築きながらその人にあった生活、利用者ペースを大切に支援している事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの役割を考えながら「地域の中で、その人らしく、いきいき」という理念を作り、施設内にも掲示し、職員会議等で理念について、話し合っている。	利用者の心身状態等を確認しながら、年度初めに現況と理念との整合性を話し合い、職員は地域密着型サービスの意義を理解・共有し、一人ひとりの思いに添えるよう実践に繋げ取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周辺施設での歌謡コンサート、敬老会他、イベントに参加し、近隣の法人施設と共同で夏祭り、防災訓練を実施し地域の人に参加、協力していただき交流を図っている。また、小学生、中学生との交流学习も実施している。	地区の行事や介護教室等には積極的に参加をしている。子供達の来所時には利用者に温かい笑顔や穏やかな表情が見られ、利用者が地域の中で理解され、事業所が地域に溶け込み日常的に交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設の地域包括支援センターと連携し、地域の介護教室に参加し、地域の人へ認知症の方への理解や接し方について伝えている。地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、年間計画、法人内近隣施設について、施設の外出、受診状況について、近隣の事業所についての説明をしている。	年間のテーマに添い、隣接されている小規模多機能型居宅介護事業所と合同で定期的に行なわれている。家族等には常に状況等を説明し、市、地域等との相互の関係作りに留意しながらサービスの質向上に向けた話し合いに取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	一人暮らしの方の相談を受けたり、申請や生活保護の相談に出向いたりして市町村とは連絡を取り合っており、また、市の連絡協議会に入会し担当職員とも連携をとっている。	市の担当者、地域包括支援センターとは運営推進会議等で情報交換を行ない、社会福祉協議会の権利擁護支援担当者も月1回の来所が有り、全職員が対応出来るよう日頃より協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束について職員会議、棟会議等を通して理解を深め身体拘束を行わないでよい方法を家族、職員の意見を取り入れながら行っている。	「拘束はしない・玄関の鍵は掛けない」ことにより職員の動きや職員同士の声掛け等が密になり詳細の気づき等への連携を深め、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で勉強会を開催し、管理者と職員が資料を通して学ぶ機会を設けています。虐待チェックリスト等を設置し注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を配布し全職員より確認してもらい、職員会議、地域での勉強会に参加している。必要時は地域包括支援センターに相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時は資料を用意し必ず説明を行い、不安な点、疑問点は、質問、または問い合わせにて説明を行い、納得頂いている。又、利用料金改定の際は案内、説明資料を送付している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の面会時に意見・要望を伺うと共に玄関に意見・苦情などの受け付け箱を設置し職員会議・運営推進会議などで話し合いを設けている。	面会時や利用者、家族等の参加する運営推進会議等で意見、要望等を聞く機会を作っている。遠方の家族等へは説明用紙を送付し電話等でコミュニケーションに心がけ、さりげなく話せる関係作りに留意している。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、棟会議を行い、月に1度行い職員の意見を聞き施設サービスへ反映されるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々に短時間でも面談時間を設け、勤務状況の確認や、資格取得をサポートする等、法人、事業所で働きやすい職場環境、条件の整備に努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、職員は法人内外の研修会に参加している。会議等で伝達している。資格取得に向けた法人内外の勉強会、セミナーへの参加も支援している。	法人内外の研修の他に、日々の関わりの中でスキルアップを意識した研修(感染症等)を取り入れながら、段階的な各々にあった研修会参加を勧めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	山形県、庄内地区、酒田市の各連絡協議会に加入しており、会議や研修、交換実習等でのネットワークづくりを通して、サービスの質の向上に取り組んでいる。	他事業所のグループホームや法人内の交換研修を通し、互いに違った視点からの刺激を受けサービスの向上に繋げ研鑽している。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用に相談があった際には本人の状態や不安を受け止め、職員が本人に信頼してもらえるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に御家族と面談を行い、御家族の求めている物を理解し事業所としてどのような対応ができるか事前に話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人や御家族の思い、状況を確認し改善に向けての支援・提案を繰り返しながら、地域包括支援センターや、必要な他事業所のサービスに繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存能力に合った作業・手伝いを依頼し、共に支え合える関係作りを進めている。裁縫・料理・農作業等、多くのことを教えて頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態変化時は、随時御家族との連絡、報告を行い御家族の意見を聞きながら、共に支え合える関係作りが出来るように努力している。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人一人の馴染みの場所や人を、御家族の面会時に場所の把握に努め、希望を聞きながら外出する。美容院、理容の継続利用等、生活環境を変えない配慮をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を職員が把握し、一日のうちお茶や余暇活動の時間等で交流する時間を設けている。又、ひとり一人が役割を持っていて、みんなで支え合っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了された方でも、相談、面会を行っている。病院、他施設に移られた方でも、御家族、ケアマネと情報交換を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉に出せない方の希望、意向の把握が難しいが、聞き取り、日頃の行動観察などから本人のニーズを把握するように努力し、スタッフ本意にならないように気を付けている。又、面会時に御家族からの情報収集を行っている。	センター方式のシート利用や言葉や表情、行動等より思いを受けとめ、日々の暮らしの中で気づき等を記録に残し、職員会議やフロアー会議等で共有しながら支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、御本人や御家族、関係者等から聞き取るようにしている。利用後も御本人や御家族、関係事業所のケアマネから、どんな生活をしていたかを聞き、基本情報を作成し把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方、お話されていることから、情報収集に努め、職員間で基本情報を元に、情報を把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族からは常日頃の関わりや面会などで意見や思いを聞いておき、職員、関係者で意見交換、確認、検討を行い、モニタリング、カンファレンスを行っている。	センター方式のシートや法人独自の様式等で情報を収集共有し、職員は全ての利用者のカンファレンス等に関わり、一人ひとりの意向・思いを大事にしながら介護計画を立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づき、状態変化は、個々のケア記録に記載し、職員間の情報共有の徹底を図り、介護計画の評価、見直しに役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察や消防の方の施設訪問を通して意見交換をする機会を設けている。近隣の理髪店、美容院、電機店などに、必要に応じて外出している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人、御家族の希望するかかりつけ医、医療機関への受診、往診が受けられるように連絡をとり、通院介助、往診対応を行っている。	利用前からのかかりつけ医や協力医療機関への希望に添った受診は、家族等と職員が連携をとり、協力しながら通院介助をしている。主治医・家族等・職員と情報を共有し、看護師のアドバイスもあり、適切な受診支援を行なっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1度の非常勤看護師の訪問があり、利用者の健康管理や医学的な支援を行っている。また、電話連絡での相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供し、職員が見舞うようにしている。医療機関や家族と情報交換をしながら、回復状況を考慮し速やかな退院支援に繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認書を作成し、事業所が対応できるケアについて御家族への説明を行っている。重度化した場合について、家族、かかりつけ医と話し合いを設け、特別養護老人ホームへの入所申し込みをする等、対応をしている。	事業所として出来ることを「重度化した場合における対応に係る指針」として文書化し、家族等には契約時に説明し確認を得ている。状況変化に応じて法人の協力体制や関係者等と話し合いを繰り返し、対応・方針の共有を図りながらチームで支援している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、救急時の対応についての研修会に参加している。又、定期的に施設内に設置してある。緊急対応マニュアルを確認している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練で、消防署、地域の方、近隣の小規模多機能事業所、通所介護、地域包括支援センターからも参加頂き、運営推進会議、職員会議で、意見を取り入れ災害時の地域との協力体制の整備、防災計画の作成に役立っている。	5月に消防署の指導を得て法人内事業所と合同で避難訓練を実施し、10月には夜間想定を予定している。市主催の総合防災訓練に職員が参加し、また事業所が地区の避難場所となっており、地域との協力体制も出来「非常持ち出し袋」等も災害に向け備えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議や毎日のミーティングにて職員の意識向上を図るようにしている。利用者のほこりやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。	利用者一人ひとりのプライバシーや生活パターンを大切に考え、過剰介護にならないように自立支援を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	小さなことでも複数の選択肢を用意、提案し、一人ひとりの利用者が自分で決める場面を作れるように配慮している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間を区切った過ごし方にならないように、一人ひとりの体調、意向に配慮しながら、その日、その時の御本人の気持ちを大切に、一人ひとりのペースに合った支援を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容院には、行きつけの所に行っている方と、馴染みの訪問理美容にて、希望に合わせたカットや、毛染めを行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備、盛り付け等も利用者と職員が協力して行えるように配慮している。食事時間もその方に合わせて提供している。又、楽しく会話できる雰囲気づくりに努めている。	利用者の出来ることの手伝い等もあり、職員と一緒に調理したものを、同じテーブルを囲み、楽しみながら食べることを大切にしている。個人の食事形態や季節の行事食、誕生日の夕食等も取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人のメニュー表を使用し、栄養のバランスを保てるようにしています。一人ひとりの嗜好や習慣の把握に努め支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行い、口腔ケアに努め、介助を行っている。又、協力医療機関の歯科医院からも一人ひとりに応じた指導をうけ清潔保持に反映している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し一人ひとりの排泄パターンを把握し排泄の失敗を減らし、トイレでの排泄を促している。	個別の排泄パターンを確認しながら、早めの声掛けや時間を見計らった誘導等、自立を目指した排泄支援を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	最終排便をスタッフが把握できており、便秘時は下剤に頼らず、乳性品や運動を促している。又、軽体操、散歩などを取り入れ、自然排便ができるように配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間を特に決めずに、夕食後の入浴を実施しておりその方の希望を取り入れたものになるように工夫している。	曜日、時間帯にこだわらず、利用者一人ひとりの希望に添った入浴支援を実施している。浴室の温度や安全面に配慮し、拒む方への声掛け、タイミング等を工夫しながら、楽しく入浴出来るように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し、状況に応じて休息したり、眠れないときは、職員と話す時間を設けるなど、安心して過ごせるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに処方箋を綴っており、職員が内容を把握できるようにしている。又、本人の状態変化が観られる時は、詳細な記録をとり、関係医療機関、看護師との連携を図るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の体調や気分を観ながら、生活リハビリや趣味の活動、散歩、買い物、地域の行事参加等楽しみを見出せるように支援している。一人ひとりの方にお願いできそうなことを頼み、終わりには感謝の言葉を伝えるようにしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿って地域、又は近隣市町村の外出し、季節感を感じてもらい又、施設外でも生き生きと過ごせるように支援しています。又、歩行困難な方でも車いすや、車いす乗車可能な車両を用い外出している。	隣接する法人事業所は日課の散歩コースになっており、地域の人との交流の場にもなっている。個別の外出希望や四季を味わうドライブ等にも出かけ、主に日曜日を外出日と決め全員で出かける機会も多く、楽しみごとの一つになっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりに応じてお金扱うことについて御家族と相談ながら、可能な限り、少額の自己管理、外出時の本人の支払いなどを支援しています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて日常的に電話や手紙が送れるように、しやすいように、プライバシーに配慮しながら支援しています。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者同士が気を使う事なく過ごせるよう、テーブル、椅子、ソファの位置に配慮しています。季節の花を飾ったり、家庭の雰囲気意識して、環境の設定に努めています。	天井が高く開放感があり、広々としたホールには床暖房が施され、畳スペースやソファを配置し利用者はそれぞれの好みの場所でゆったりと落ち着いた時間を過ごすことが出来る。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの居場所について、職員が会議等で話し合い、ソファやテーブルを置き場所工夫するなどの配慮を行っています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前や、入所後も御家族面会時に相談し自宅で使い慣れたものを持参して頂き、本人が居心地良く過ごせるように配慮しています。又、ベットや畳を使用し自宅に近付いた環境を提供できるように努めています。	居室入口には自分の部屋が分かるようさりげない目印や災害等に備え身体状況(護送・独歩・担送)を示した色別のテープを張り安心、安全を第一に考えている。自宅の延長として家庭的な雰囲気の中で生活出来るよう家具の配置等工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員会議、棟会議で一人ひとりの環境面についても検討し、安全に暮らせるように心掛けている。		